

田舎芝居忠臣藏

前編

上

^ 13
3720
1



13
3720
卷 1

以不肯仍増補拙筆と揮く跋客雙鶴堂と與ふ



文化八年辛未冬十二月上浣本町延壽丹藥店より採り
玉顔好奇藥江戸乃水製法の閒筆を採り

江戶前市隱

式亭三馬戲誤



田舎芝居上

附言一

両國柳橋大のうが樓あて落活の大会ありたるをりり
あはるふくやとさるたりとさるんざうとさるざいらくお出せり

朝寐房主人落話會と壽詩と詞

朝寐房主人落話會と壽詩と詞
天明年
中さり
會
名
狂
會
名
狂
會
名
狂

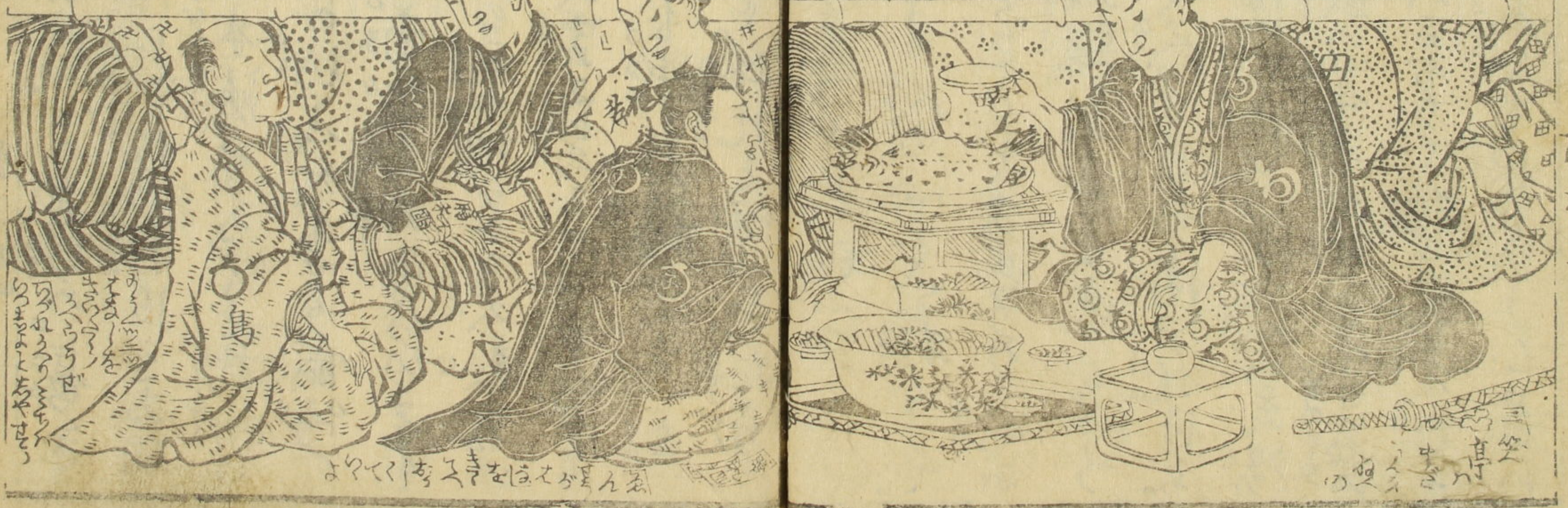
頃日許多の人の觀弄る落話ちりり其組を考ら
小遠き支へさるもいれどちりり天明のむりり
たをさ哥ふあさる大人さるしづれの牛急おはばの
延びひささめく馬づまの馬馬老人おふさぞ鳥の
鳥亭と名告さどころにゆふおをせさきてその
日の披講をりのせりとうまて世ふかゝる人ぐん
向る業よあどあさるさるべくさどちとお利ある

馬老
會
名
狂
會
名
狂
會
名
狂
會
名
狂

戲作者だきいあゝ清松の彩道ひれ
うもころちして未園彩日本一の清會とこそ
さるさるさる振を命が行樂の圖へかま里の
かまもさるお宿へさどちや相中町をねふ
さるさる花咲さるる本所の足那さるお供りじとあ
彼鬼さるぬ向島より得つさるさる古昔自籠か
らちの家おさるち玉箱老を忘るの宝物とさ
さるさるも其の繪り見かんさるさる鄰松の筆
さるさるさるさるさる林向の千切雀ちりり



談洲樓馬芝
両国柙橋大の
樓上小おのく狂文
披講の体



あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの

よやくしきをほそがるゑ

三
真
亭
の
変
り

夢 ありて ありて ありて ありて

夢 四維 久が 落 始 まりたり。 什 麼 く 吐 の 道 けり。 長 び
 兩國 橋 小 儼 へる 忘 生 く 信 の 新 作 け 抄 じ 此 國
 揚 小 従 へる 氣 向 へ 終 えぬ 一 本 槍 ごとく と 搦 折 の
 被 あり ち 足 じ ぞ あり 終 箱 の 端 山 狐 あり 穢 悔 け
 の 向 針 卷 文 山 賣 の 不 同 丸 南 無 奇 妙 あり び び とも
 六 根 小 汗 じ ち ち ち ち 心 脾 腎 の 三 の 切 テ ン ツ 天 敷 羅 の
 舟 小 店 より。 千 り テ ツ と ん じ 五 宝 小 至 る せ で 百 中 阿 の
 鳥 籠 小 秋 じ 搦 び 一 出 の 音 も 中 少 鶴 聲 の 一 声
 あり 豊 後 なる 文 長 唄 あり 舟 じ 跡 孔 と 呼 ぶ 新 狂 言 也
 舟 小 漸 来 の 鄭 聲 あり ども 落 活 の 夢 樂 を 礼 じ とも
 七 分 二 分 の か 孫 あり 小 ころ 下 じ ね いて ころ じ とも
 居 合 抜 の 衣 の 肉 も 曾 呂 利 が とも 一 あり じ とも
 舌 の まる 瓜 見え 博 多 獨 樂 も けり び び とも 口 の
 輕 業 を 聽 てる 玉 本 小 金 も 道 成 寺 へ 走 る あり べし
 中 小 唇 寄 一 まで じ 下 一 膏 茶 の 芭 蕉 も 清 狂 言 の
 新 道 小 杖 じ び び 覺 膏 茶 の 覺 とも 脱 ぎ ぎ とも 腹 の
 中 の 慶 じ 三 題 活 へ 箱 の 裡 の 狭 ぎ 八 人 處 あり たり び

あしど。あしどいへあし雪料煙草屋をこぐくお身おさるらば。
 ちるふひのんづりのけりりのあし婆國寫亭。字ハあし耕。
 蜻蛉切の切口上。葛直お吉戦さるるも。張飛員員の
 抹額連中。ちるらたらのはあしおまらど。ちるも信ハ
 武左末門が。鹿の巻着石茶の。ゆ買さるらて他酒法
 吐日親の五郎兵衛が。露の玉屋の花火賣り。花も実
 もある新作の。ま拭の新形と。錦繪の新板小日とあし
 そい。銅の耳搔とも用おむて。渡世の風俗お社さる。
 紅色眼鏡とも借らどとて。世の中と二重小見ひた。


江戸の川あ流お後きととて。河岸の石塙そこまの
 穴狐探せり。かまきバ。錫せぬ袋代候い。くよ藤うぬぬ
 朝空森坊が名。朝市おかきささく。盧生が粟餅。
 夢樂の名。五十嵐のまら油お芳。名代くとうらさ
 洋判くと呼ぶれども。そまのの教く。賣さどもさる
 ふきねん丸。是も看扱おららりまきまや。あバタとま
 ちる古同や。およまらとまららどとて。融人の心と
 積りくる小判小粒の収納帳。その又高もそららどと
 大のしげ樓おけ。會のりぞららかざらら。あららら

吉例了仍く 松の内 **けいぶ** 新しき新向の御書 新作一まの掲

江戸のありのれ薬 五十文 ほか二十文 江戸物産持系
百五文 百文 六十四文 江戸物産持系
百文 江戸物産持系

●右江戸のありのれ薬の御書は江戸物産持系
諸國を遠く賣る所あるは江戸物産持系
は江戸物産持系と相違なく江戸物産持系

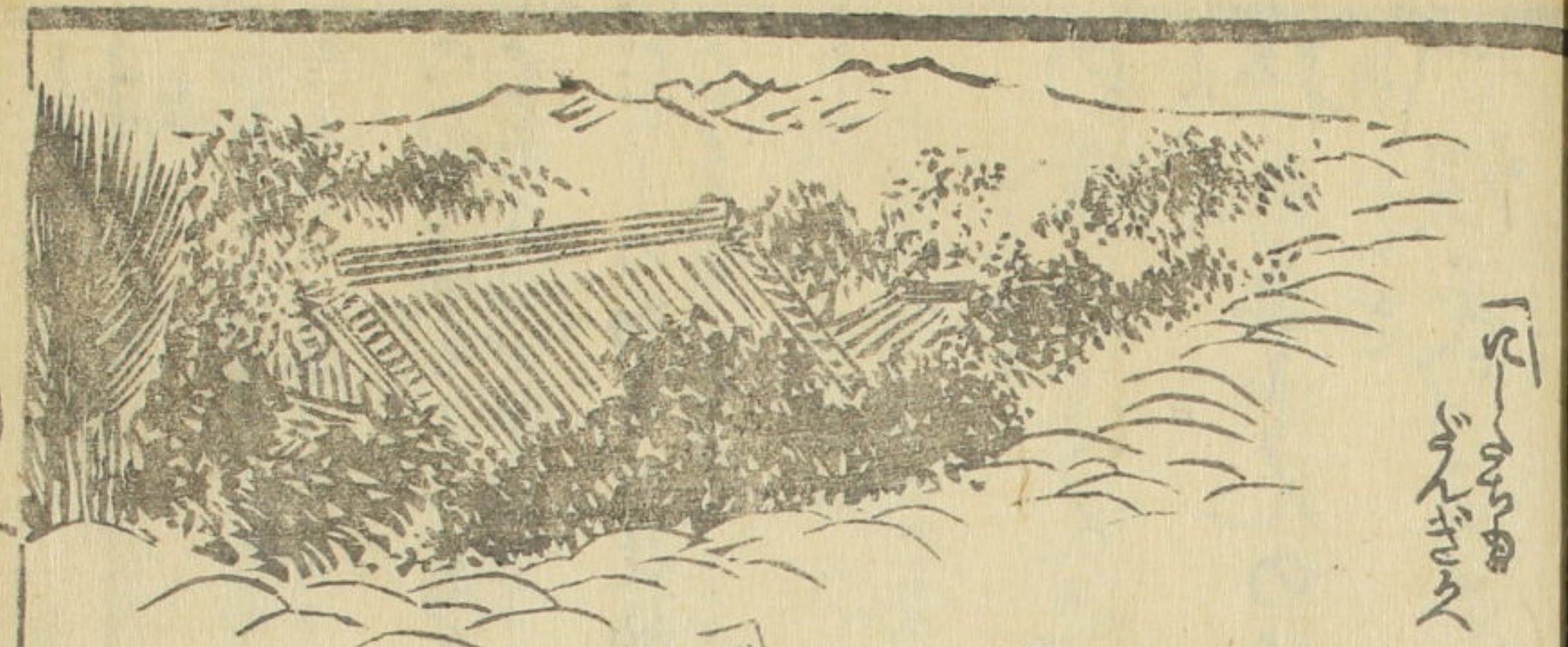
當春 御かみれり 薄化粧 一色代百文 江戸物産持系
新製 わらひの向粉 半色代百文 江戸物産持系

江戸本町二町目南側
式亭三馬製 

田舎芝居忠臣藏初編卷之上

江戸 式亭三馬 新編 朝穴赫房 舊安本

練鼓苔深じて 鷲おごろうぬ 君代の御恵ゆ
けくさるる四の民皆萬歳とうらひ 五穀豊饒の
時津風技とあしうぬめでさふ 腹鼓うら農家の
光景らへ行國とささめ 縁ごと 離鄙歌の聴くふ
わふが不定で枕ア あげさあげさ 枕から罪へ



田舎の風景

田舎の風景



おんな十人
おんな十人
おんな十人



おんな十人
おんな十人
おんな十人

おんな十人
おんな十人
おんな十人

田舎の風景

田舎の風景

女形で休して。福んごう〜とるもんなごふ見せべり（ホニ）

玄十さまも色男（いろおとこ）ごうよ（ごう）糞擔桶（くそたんぼく）中（ちゆう）でが。ぎんら〜

目立（めだち）中（ちゆう）さま（さま）「そのちごごア。ありやアム（ム）。私が馴染（なれぢま）居る

お女弟（おんない）めが。あんでもおめ入（おめいれ）こせ入（こせいれ）てしごる物（もの）が

あると。久（く）〜の（の）写（ま）り（り）ごうけ（エ）。さうく入（いれ）せ入（せいれ）糞（くそ）くご（ご）は

撥（は）て（て）是（これ）の（の）ア。あんと立（た）流（りゅう）ぐんべ（い）がム（ム）。ま（ま）ん（ん）ご（ご）ア（ア）う（う）上（じやう）の

たがふ。あ（あ）の（の）ち（ち）が（が）定（ぢやう）後（ご）と。我（わが）が（が）定（ぢやう）後（ご）さ（さ）ひ（ひ）よ（よ）こ（こ）ふ（ふ）付（つ）居（い）ら（ら）ア（ア）子（こ）

ま（ま）ん（ん）ご（ご）物（もの）を（を）こ（こ）と（と）入（い）ら（ら）移（うつ）入（い）ム（ム）。是（これ）く（く）〜（〜）そ（そ）ろ（ろ）ち（ち）サ（サ）ご（ご）ら（ら）ぐ（ぐ）ん（ん）べ（べ）ら（ら）

「こ（こ）後（ご）家（け）どの（の）紙（かみ）お（お）ら（ら）り（り）て（て）入（い）ら（ら）。今（いま）疾（はや）ア（ア）寺（てら）で（で）ま（ま）あ（あ）入（い）合（あ）ご（ご）ア（ア）

「ま（ま）ん（ん）ご（ご）〜（〜）家（け）の（の）暗（くら）く（く）高（たか）〜（〜）ア（ア）う（う）。静（しず）か（か）ご（ご）〜（〜）ッ（ッ）サ（サ）入（い）ト（ト）別（わか）れ

おろ〜又（また）〜人（ひと）を（を）ま（ま）う（う）〜（〜）紙（かみ）う（う）〜（〜）ひ（ひ）ま（ま）が（が）〜（〜）ま（ま）る（る）男（おとこ）これ（これ）も（も）ま（ま）る（る）白（しろ）の（の）た（た）〜（〜）ぬ（ぬ）の（の）布（ぬい）を（を）ま（ま）〜（〜）八（はち）丈（ぢやう）ぬ（ぬ）の（の）帯（おビ）を（を）〜（〜）り（り）目（め）だ（だ）〜（〜）紙（かみ）は（は）〜（〜）ま（ま）入（い）細（こ）工（こう）の（の）ご（ご）ら（ら）を（を）ま（ま）て

「そ（そ）〜（〜）紙（かみ）の（の）紙（かみ）ご（ご）ア（ア）。々（々）色（いろ）半（はん）師（し）の（の）玄（げん）十（じゆう）〜（〜）ア（ア）子（こ）「ハ（ハ）ア（ア）

後（ご）房（ぼう）後（ご）ら（ら）エ（エ）。ご（ご）け（け）〜（〜）ご（ご）ら（ら）ん（ん）ご（ご）エ（エ）。ま（ま）ま（ま）〜（〜）こ（こ）ゆ（ゆ）〜（〜）ア（ア）ま（ま）あ（あ）合（あ）ご（ご）ア（ア）

ま（ま）も（も）紙（かみ）ご（ご）ら（ら）う（う）思（おも）つ（つ）て（て）。今（いま）紙（かみ）ご（ご）ら（ら）う（う）あ（あ）さ（さ）ま（ま）あ（あ）〜（〜）う（う）。疾（はや）〜（〜）あ（あ）

紙（かみ）ご（ご）ら（ら）〜（〜）あ（あ）あ（あ）よ（よ）を（を）は（は）て（て）居（い）〜（〜）ん（ん）ご（ご）エ（エ）。又（また）紙（かみ）色（いろ）ご（ご）ら（ら）〜（〜）ん（ん）ご（ご）エ（エ）

〜（〜）あ（あ）い（い）〜（〜）が（が）あ（あ）。か（か）〜（〜）女（おんな）せ（せ）入（い）〜（〜）ら（ら）と（と）び（び）〜（〜）く（く）〜（〜）び（び）〜（〜）く（く）〜（〜）と（と）

吾わが子こ惜おぼひひととアア一いびびくくちちららびびくくららめめエエアアニニハハ細こ路ろの
 中なかでもでもちちのの孫まご家か八はち希し左さ衛ゑ屋やののるるごごうう。大おほ切きの
 娘むすめエエちちののささままととちちややアア一いかかががままねねトト。足あし津つ大おほ道みち沙さ法はふ小
 仕しべべのの言ことてて肝かんをを熬あるるごご。夫おつとららハハ。上うへのの々々のの口くち利りでで多おほくくがが。
 且かつ那な寺でら中なかでで掛かてて内うち湊みなと小こ仕しべべのの言ことてもも。ああふふ了り簡かんああん
 孫まごとと氣き強かびびるる物ものごごうう上うへのの々々のの年とし老おい氣きがが皆みなハハア
 ううららががふふささままととムムモモ。新しん家かのの小こ旦たん那な。新しん田でんのの勤けん者ねむりカカ。
 向むか河か岸がしのの孫まごとともものの。夏なつ津つ屋やのの舎や身み子こ池い尻しりのの紋もん十じゅう
 ままんんぞぞがが大おほ勢せでで来きててりりよよめめややアアササ。おおハハヤヤ。孫まご家か屋やのの
 娘むすめ子こののるるごごがが鬼おに角かくむむららううのの。そそここでで。ねねままややアア。近きん々がう
 ででハハ口くち利り者ねむりとと其その上うへ。村むら内うちぢぢややアア。二ふたともも下したんんねね博はく物ぶつ
 ののるるごごうう。今いま交まじのの一いつ件けんをを肉にくくくでで漬ひむむやや。剥む小こ
 遠へ入いてて呉くれせせとと靴くつままききごごアア。ヲヲ吞の込こごごアア。ううららがが遠へ入いるる。
 どうどうららががああるるごごんんべべのの。孫まご家か屋やへへ出でるるけけごご。ああんんでもも
 兼あ加かささせせべべのの情なさけ合あごごるるごごアア。吾わがももああららででりりととああらら
 ううらら。親おやまま代しろをを指さ込こでで度ど量りへへ通とほつつてて。ははららををああらら對たいてて。

扱あつかハ。別わかズ。でも来き申ま。移うつル。が。け。交まじ。不ふ。持もち。有あ。る。是こゝ。者もの。等ら。
 此こゝ。大おほ。切き。の。お。娘むすめ。子こ。と。あ。つ。く。さ。ま。ま。空あま。り。一ひと。立た。後ご。と。ん。べ。の。ま。は。し。
 つ。て。い。ろ。く。と。く。も。ロ。イ。利き。さ。げ。さ。が。あ。り。ぢ。や。ア。大おほ。名な。沙さ。流りゅう。小せう。
 ま。ま。と。言い。う。一ひと。申まを。げ。さ。が。娘むすめ。と。あ。つ。く。さ。ま。ま。と。持もち。あ。り。
 ても。あ。ん。中ちゆう。り。美み。目め。でも。あ。ん。め。つ。サ。危こゝろ。角かく。男おとこ。ア。敵てき。で。持もち。て。
 船ふね。ア。ま。き。で。り。て。と。む。じ。の。人ひと。の。教しよ。め。も。あ。る。あ。り。あ。ん。でも。
 石いし。垣かき。へ。雞と。卵たまご。と。ひ。ら。と。や。う。ふ。碎くだ。け。さ。う。せ。ん。ハ。テ。さ。う。し。る。
 り。ん。ど。致いた。の。滅め。る。物もの。でも。ご。ざ。ん。移うつ。ル。さ。う。も。堪かん。忍にん。が。は。悲あは。れ。ん。
 づ。い。が。サ。そ。こ。が。その。堪かん。忍にん。の。る。る。堪かん。忍にん。が。堪かん。忍にん。を。中ちゆう。小せう。天てん。神しん。
 持もち。て。ご。ぞ。る。ツ。サ。子こ。照あき。目め。も。地ぢ。務む。堂どう。の。説まを。法ぽう。で。後ご。長ちやう。坊ぼく。ま。が。
 言い。う。さ。あ。り。さ。ま。ま。ニ。む。じ。越あそ。後ご。の。韓かん。信しん。へ。竹たけ。田でん。真ま。言げん。と。
 戦いくさ。ひ。總そう。角かく。の。助すけ。六むつ。が。膜まくら。と。う。ろ。て。千せん。人にん。の。肩かた。を。越こ。え。と。の。み。
 事こと。ア。通つう。俗ぞく。三さん。國こく。志し。小せう。詳じやう。と。と。理り。造ぞう。公こう。言げん。と。物もの。ご。う。ろ。八はち。希し。
 左ひだり。邊へ。も。氣き。が。あ。り。ま。り。と。折よ。れ。ア。成なり。程ほど。め。針はり。が。扱あつか。ふ。ら。ん。が。
 り。の。が。こ。ろ。る。ツ。サ。ま。ん。ご。う。れ。い。ふ。こ。の。む。べ。の。ろ。ろ。能あた。扱あつか。ふ。
 さ。ろ。せ。ん。と。ら。う。ろ。ろ。中ちゆう。が。扱あつか。ふ。妻つま。一ひと。六むつ。儀ぎ。大おほ。夏なつ。ウ。三さん。儀ぎ。新あらた。酒さけ。屋や。の。

田舎言と云ふ

七二

一斗樽と添へ其よふ医者屋中でらちちかけの約束
 ごとく。まも知居べい。浪井新田の蒔村毒庵様よつら。
 そりやア大つぎづりけの毒庵様ごら。陣小ア活茶原ごア。
 うらが婆様か大おの時頼ごアか。多摩小我折ごアか。
 マア聴て長さるりア。あふが。うらア婆様も。九十ふある
 年病ごアうら。骨と皮べのふまうごアか。かかたうご
 うら。鬼角風長入遠へい。くとりいど。孰の医者屋小
 向ても。湯のまん移くとまうごアか。毒庵様小か。らて又
 湯のりやを向ごまう。又各別ごア。陸風もようんべいとら
 うら。急小居風長入瀧とハ抱へて遠ると。あんどら
 眼をぎろくにして介齒べい。喰う。こりやアとんどるごアと。
 大さうりぎイをらめて。医者屋さ。ゆべい。と人をきると。毒
 庵様あエ。あふが。あちつきをらうてごらうて。皆其移小あ
 するりや移へ。まう。あまが来ちやア。昔波女まんぢやうが
 牙ことおもつら甘と。いひまがう。大肌脱小まうて。婆女さあ
 腕と握て。中へて。脈さんど。伝えらけへ。こりやア。でかく。

田舎者

二

のがせ

う。先^{さき}筈^{はず}をぬいて、骸^{くわい}の筋^{すぢ}を抜^ぬく。湯^ゆをぶんとすけろと。
 折^ひ角^{かく}漏^{ろう}と湯^ゆをす^すこが^がつ^つ。ま^まう^う剃^そ刀^{とう}丸^{まる}より^{より}剃^そる^る。
 遂^{すい}上^{じやう}が^がで^でけ^けら^らう^う。つ^つづ^づり^り剃^そぐ^ぐと^と。あ^ああ^あが^がら^らう^うく^く坊^{ぼう}主^{しゆ}あ^あして。
 ま^まう^うう^うマ^マ蓋^{ふた}と^とう^うせ^せ。そ^そこ^こで^で。今^{いま}ま^まじ^じ見^み合^あひ^ひて^てき^きが^がつ^つら
 ざ^ざア^ア。け^け形^{かたち}で^で浴^ゆ灌^{かん}も^も頭^{あたま}剃^そる^るして^{して}あ^ある^るう^う。ま^まう^うう^うア^ア葬^{まうらひ}の^のせ^せ
 と^と云^いて^て優^{ゆう}く^くと^とゆ^ゆら^らう^うが^が。後^{あと}は^はま^まま^まの^の能^{のう}人^{にん}も^もあ^ある^るが^が。あ^あの
 位^{くらい}な^な人^{ひと}は^は又^{また}と^とあ^あん^んめ^め入^いら^ら。み^みち^ちつ^つの^のこ^こ上^{かみ}ま^ま一^{いち}匠^{しやう}者^{しや}と^とい^いふ^ふの^の毒^{どく}磨^ま
 どの^どん^んべ^べの^のト^トを^をき^きり^りて^てゆ^ゆく^くふ^ふわ^わど^どま^まく^く善^{ぜん}徳^{とく}寺^じの^のり^りふ^ふ六^{ろく}庫^こ裏^らより
 上^{かみ}を^をな^なま^まち^ちり^り目^めの^の二^に十^{じゆ}人^{にん}を^をう^うり^り。あ^あん^んも^も本^{ほん}堂^{だう}へ^へあ^あら^らう^うと^とあ^あ村^{むら}の^のら^らち^ちを^をう^う。阿^あ古^こ田^{でん}の^のち^ちを^をう^うたら^ら
 何^{なに}う^うぞ^ぞう^うく^くと^とを^をほ^ほま^まて^てあ^ある^る。一^{いち}是^ぜハ^ハア^ア。ど^どん^んも^もお^お早^{はや}ふ^ふ。ど^どち^ちを^をう^うら^ら
 さん^{さん}ち^ちを^をう^うく^くア^ア厚^{あつ}け^けり^り中^{ちゆう}に^に。ま^まじ^じと^と後^ご藤^{とう}で^でご^ごづ^づり^りを^をま^まて^て「後^ご
 藤^{とう}さ^さア^ア。ま^まじ^じど^どん^ん。ど^どう^うの^の物^{もの}さ^さア^ア。ま^まじ^じ等^{とう}の^のあ^あん^んす^すり^りど^どん^んべ^べい^い。
 後^ご藤^{とう}板^{ばん}ち^ちく^くと^とお^おま^まま^まて^てる^るも^も有^ある^る言^{ごん}う^う。ま^まじ^じが^が。ま^まじ^じ。
 主^{しゆ}に^に「村^{むら}でも^もこ^こ。ぶ^ぶい^いく^くロ^ろイ^い初^{はつ}め^め者^{しや}さ^さア^ア。皆^{みな}さ^さら^らの^のよ^より^りや^や
 早^{はや}く^くご^ごづ^づり^りこ^こが^が能^{のう}く^く一^{いち}ア^アも^もア^ア。ま^まじ^じの^ので^でま^まべ^べい^いと
 思^{おも}ひ^ひこ^こア^アが^が。昼^{ひる}時^{とき}か^から^らう^う。ど^どう^うの^の後^ごア^ア出^い出^い食^くつ^つら^られて^ては^は三^{さん}
 の^の内^{うち}宿^{しゆく}て^てあ^あま^まし^しこ^こア^ア「あ^ああ^あよ^よと^と。ち^ちく^くべ^べい^いこ^こご^ごア^ア。能^{のう}か^か藏^{ざう}小^{せう}

日録

十一

見よ。あが半四郎路考とやうにも。あんまり肩もりう
 せとやんとぞんとやまご。ツツテ。彼之辰目で千ヨボガム。[窓か
 りてくる柳蔭。その柳より風俗ハト借る時。モ。奴と借ホ
 連て。綿帽子で志よあうくと出かける婢おかるか。[窓か
 ぞうぞうエ。]こりやアよかんべい。色かま。ま。で眼ぶぐくして
 アハ。一。おたる。さる。只今あまこの。ゆとやま。うら。彼
 是と。何ら。色中。一。か。私か。色か。ま。く。て。い。あ。かる。ハ。出。来。ほ
 福へ。返。言。ぶ。ろ。甘。さ。な。ん。ど。ん。一。サ。ア。解。り。さ。あ。かる。り。ま
 甘。サ。ト。キ。ニ。更。後。村。の。後。考。ど。ん。の。ど。う。ぞ。エ。一。ハ。イ。也。も。お。く
 お。願。が。ご。ご。り。や。ま。と。お。の。り。ゆ。でも。福。へ。か。先。之。辰。目。あ。さ。[窓か
 持。来。る。柳。蔭。の。其。柳。より。風。俗。ハ。ト。借。る。時。奴。と。借。ホ。つ。れ。て。
 綿。帽。子。か。ぶ。つ。て。志。よ。あ。う。く。と。出。け。る。婢。お。かる。か。[窓か
 ぞう。ご。ご。り。や。ま。と。一。後。考。さん。オ。も。か。り。ま。が。ら。今。も。お。聴。の
 通。り。あ。か。る。日。と。極。る。そ。う。て。マ。肝。が。で。ん。ぐ。り。返。る。子。
 小。主。が。教。で。あ。る。も。お。じ。う。ん。べ。い。ま。よ。り。う。ま。が。[窓か
 お。あ。る。坂。内。で。も。さ。る。か。よ。かん。べ。い。一。け。野。郎。あ。エ

村中の妻飯一人で食つて。自然分の田畠ア糞ごう
けふしても。うぬらら面でおあるが出来べいら。引込でけり
う色こつらぬが引こり。ト双方幸なりたかひ小声ききふまりて。まごふつ
とあんどけしきまらばまなく中ふかきさむ

「まづよくござる。静小云てもこらるるゆゑ」ハテ中静らら

「是」可去十。あんと長く移入。モ、鉄養どんも静らら

けちたろが洞も待ねで女形もさる者かあんのころど続

づつとの登づつとのこ。こさるる甘入むじし江戸役者小

次村小借次とりよへ。河内國荻井寺へ用帳其居の時

モノ。道と意いで血のな分強うことさうとげと。法人まきふ

感かこつげと。男小血暈の移入。そこが女形の情とりよ

物ごや。直等も是ううきイ付とが能。翌日うう雪隠

移ても。うもの移入。ううきす移入が能。見物か聴

ちやアあんまり色気が移入。あんでもお次す小長くこ

うが能。こ屁も只今までの移入の放進中。移入ぞ。にて

其の食物も用ひ。移入ぢやアあん移入。草小塩ごんまの

煮ころを。陰庇小救のみのけし。あんごや。あんごは延るまよ。

ワコデ。笑の時イ大ハイあて。ワハハとさ。笑のらけつ
 目。あんでもおぼしくあつて。ワハハとさ。笑のらけつ
 つけハイとあてて笑が能まづ一やういそんてよーと。
 扱はさるお聴の通り。おかるの強ぎが出来すこ。志は
 何の村でもね言え女形が拂底でさうさくさるが。け村
 ぢやア忠臣義とより早く。おかるべい二人りまで出来
 すが。他村への突えも能ちよおさうら。中よく二人り
 でさるがようんべい。對の衣装やどちうでも仕務がア。あ
 勤平がちんと能長ぞんべい。けきどもにぎやうでよん

べい。あんでも同まどららるが。そのアアアなるさ
 「さるちど能由のさうさう中よくあんで勤
 中よくべい「モ。あ方で能支さるらるぞ。形さ押さ
 べい。ああさまおも及を編るゆでさる「まぢやアモ。
 檀那寺修後の信願所はけるやうぞんべい「ようござる中
 よく志まきとべい「さうさく。トキニは麻坂の尻女ぞんべ
 ぢやうぢや「ハイ。ローの甚く辰目の内也。ちくこのぞんべ

もろくと悉狭助エバ^{ひんや}に^か古川本^{えぞ}秀^はの^誰誰^ご。く
 金吾^{きんご}どん^ら。是もよかん^ごの^く。トキニ^{かん}どん^の陸^{りく}治^ち判^{はん}友^{ゆう}
 が^定申^ます^ら移^{うつ}入^り「お^まさ^がま^ごの^う」誰^たぞ^エ。今^{いま}は^誰誰^の七^{しち}之^の
 進^{しん}見^まる^エ。こ^のや^アよ^うん^べい^の男^{おとこ}が^ふり^もま^きろ^として。大^おあ^らり
 どん^べの^長代^{しろ}や^ア日^ひ頃^がま^がた^をぶ^らて。博^{はく}識^し面^{めん}が^る
 ぞ^ろ。年^{ねん}貢^{こう}の^多き^まに^勿論^{ろん}あ^んで^もか^んで^も少^{すく}の^事事^{こと}
 お^どー^中の^まと^ごア^く。面^{めん}が^勝く^てあ^ん移^{うつ}入^りあ^らず^ア。羽^う三^{さん}
 う^らが^師あ^らず^ア。是^こ期^きと^ます^らん^ら。し^ちめ^てく^らぢ^め
 こ^うと^ます^ら。ち^たん^ん。あ^ぢあ^らい^い言^いふ^んが^あら^ずあ^らず^ア
 仕^しる^とし^ちめ^ると。コ^のし^ちめ^らる^さ。又^{また}う^らも^まさん^ごう^うる^者
 が^あら^ずア^ア。了^{りょう}簡^{かん}が^有て^いう^ます^ら。し^ちめ^てく^らぢ^め
 切^き付^ける^者。銀^{ぎん}が^用の^仕ら^よ。あ^んで^まは^らぬ^面面^{めん}
 今^{いま}も^その^貴紙^しに^接て。旗^{はた}草^{くさ}壺^{つぼ}に^はて^られ^る
 「そのロイ^{ロイ}と^まる^あよ^一あ^んで^忘れ^る」^大あ^らず^アの^何
 る^ごと^あら^ずん^ら。店^たを^まん^も長^{なが}く^移入^り。そ^のあ^らず^る

「あ^んで^忘れ^る」^大あ^らず^アの^何
 る^ごと^あら^ずん^ら。店^たを^まん^も長^{なが}く^移入^り。そ^のあ^らず^る

鐘の文句ウリムズたん「たのこべいさうしゅんま。ハテ師し出でが
ひらこ引込む西しア「師し出でのううらふ構かまどと後うらまふ跡あとさ
 能あさ「ハテ悪い呑のぬぬさ。師し出での跡あとも口くちうが道具どうぐが
 習うりて表あ門かどふさるいッし能あう子こ。そさ効う平へいとおかるが
 出でて来きべのい。まうもおかるい人ひと中なかで出でて来きるいのいを
 「そのやア。おかるが百人ひゃくにん出でべいが。効う平へいが千人せんにん出でべいが。
うらうらア貪おん惜ぢやくア移うつへ愈いづいきの空む間けんの鐘かねが悪わる多おほい。あふ文ぶんの
うらうらア山さん椒しやくちまちまでもかかるいべいのい「ハテ呑のぬぬこの日ひのい

ぶぶぶぶ。そさぢぢやア狂くる言ごが出で来き移うつへ「ままちちのいハアおおの
 日ひのい男おとこがいといつつが。ままちちのい男おとこがい。甚お平へいや
 おおかるが狂くる言ごが出で来き移うつへい。ううらも長なが上かみ下しもばばららり
 けけいいて。喧けん嘩かくくといべいいいちちやア狂くる言ごが出で来き移うつへササ「其その
 ううらうらうらうは辰しん目めのかかわわよよ也ご其そのああででサ。あふ文ぶんとぶぶちち出でさ
いとも先陣せんじん同どう言ごとがいのいともいままが好この三さん時じふふうう口くち入いらら
いららやアあゆゆええのいエエ。ままちちのい是非ぜいが移うつへ。ハテ大名だいめい殺ころさらら
いままでもはままちちのい其その代だいは辰しん目めぢぢやア。かかわわよよ也ご其そのああのい

づいふ「家うハア」まの居ろサ。在々々々もあれ道
 成寺でも踏む氣ど。ドレもんごら藤づの舎見ま
 ゆるぐう同志おはまきどら「うら」まご判友の秘肯古
 をは移入ちやアま移入「えんごう」さうさう甘入お小
 も判友がまの誓古まのでも移入ちたるが眉るさ
 おららるる方のるゆに上しと志まごう出あうど
 ふあしうらるるサ「すんごう」もま移入「後病
 なるぞ」そのや「ま」でも能が安なるが腰移入らる發
 てウシシがまのて居らるゆに大掘おまごうゆら
 其「ササ」アイまごう。皆ゆらりと居る其「肉
 らら「中」サまごう。モ。脊門の指さ後るまお病おが
 康居ろけエ。用「して」けら「中」の「咬」ま
 一申なる「あお」病お住あんでも移入。赤殺して
 葱入るま考て食ふべら「そん」まかあよ「お
 があおおある物ご「う」まごう。ト「か」カ
 螺の貝と吹こく「ほ」の貝「ブウリ」

定づゝいの男かけまゝ

竹本茶飯ちま後只今

三馬店妙薬類はひろく 諸國へ賣弘所あやと有えい

る金勢丸 酒乃意のさゆ〜とあつ〜わど〜け 代 百文
はく二道の妙薬他家を類の名方 代 五十文

式亭 一方 志乃くの黒薬 常から用い〜志乃くの相切〜合 代 五十文

はめはひ〜ろく 雪の及 金百疋 家名を〜ら〜由〜名
○ 蘭奢衣 月のなご 金百疋 家名を〜ら〜由〜名
花のえん 金二百疋 家名を〜ら〜由〜名

田舎芝居忠臣藏初編卷之上 終



店繪世浮井荒
五拾ノ壹町野上谷下京東
番八〇七三(83)谷下話電
(書圖術美)(畫版繪世浮)

Handwritten notes in Japanese characters, possibly including the name '荒井浮世' (Arai Ukiyo).

